

本学生のキャンパスライフに関する一考察

—大学生活および学修時間に着目して—

小 嶋 紀 博

【要 旨】

本学生は、どのようなキャンパスライフを過ごしているのか。授業における予習復習の課題や授業以外の自主的な学習はどのぐらい時間を割いているのか。本研究では、2年生を対象にアンケート調査を試み明らかにする。加えて、教育出版会社や大学研究機関の調査データと比較検証しながら本学生の特徴を描き出す。日本の大学はユニバーサル時代を迎え高等教育の質保証が重要なテーマとなっているが、その一考察とする。

【キーワード】

キャンパスライフ 学士課程教育 学修時間 大学の質保証

はじめに

M. トロウは、高等教育の発展段階論を提起し同年齢人口比でみた進学率が15%までの「エリート段階」、15%～50%までを「マス段階」そして、50%を超えた「ユニバーサル段階」と示した。日本の大学進学率は、1991年に25.5%であったものが、2009年に50.2%、と急速に拡大を続けユニバーサル段階に入ったといえる。〔2022年には56.6%（文科省学校基本調査）〕この量的拡大は大学生の進学動機や目的の明確さを曖昧にし、加えて出身背景、生活意識、価値観を多様化し変容させたといつてよい。

では、本学生の現状はどうか、どのようなキャンパスライフを過ごしているのか。そして、学修時間等の実情はどれだけ把握されているのか。この課題について本学生が1週間をどのように過ごしているのかを学修面とそれ以外の生活面において必修科目「インターンシップ基礎」の2年生を対象にしたアンケート調査を実施し考察した。加えて、1年生から4年生までのデータであるが教育出版会社および大学機関の調査を用い比較検証する。

先行研究では、川崎（2018）の知見をもとに課題の背景や問題の所在について深めていく。さらに、国立教育政策研究所の調査（2016）を用い触れることとする。

本研究の目的と意義

本研究では、本学の学生はどのようなキャンパスライフを送っているのか。そのために1週間

における学修面とその他生活面についてアンケート調査を実施し明らかにすることにある。加えて、ベネッセ総合研究所「第4回大学生の学習・生活実態調査」(2022)と本学生の全体学生のデータを比較する。さらに、東京大学大学院教育研究科「第2回全国大学生調査」(2018)における人社教芸と保健・家政の2区分のデータと本学の文学部と国際経営学部との平均値と本学食物栄養科学部の平均値のデータを比較検証する。

まず、「学修」についての表記であるが、中央教育審議会は2012年の「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学～」において大学制度において、1単位は授業前後の主体的な学修を含めて45時間の学修を要する内容で構成することが標準¹とされているこの単位制度は学修の主体性という大学における学修の本質に基づく仕組みであるとともに、体系的な教育課程と不可分に連動している。

このことから本研究のタイトルは学修時間とした。しかし、他の調査機関では、学習時間と表記しており、本文中ではそのまま学習時間と表記する。

ではなぜこのようなアンケートを実施し比較するのか。同審議会は、2006年以降に大学分科会を中心として学士課程教育に重点をおいた審議会を行い2008年の総会(答申)では、グローバル化する知識基盤社会において、学士レベルの資質能力を備える人材育成は重要な課題であり、一方、大学全入時代の到来など大学の取り巻く環境は急速に変化している。このため、学士課程教育の量的拡大と質の維持・向上を図る必要があると結論づけている。

ここに大学経営・政策研究センター「第1回全国大学生調査」(2007)が調査した1週間における日本の大学生と米国の大学生の学習時間を比較したものがある。日本の大学生は、授業以外の学習時間では、1時間～5時間が最も多く57.1%、6時間～10時間18.4%であるのに対し、米国では、6時間～10時間26.0%、11時間～15時間22.3%と続いている。日本の大学生は米国の大学生よりも授業以外の学習時間が少ないことがわかる。

日本の大学生とアメリカの大学生の学習時間 (%)

	日本	アメリカ		日本	アメリカ
0時間	9.7%	0.3%	11時間～15時間	7.3%	22.3%
1時間～5時間	57.1%	15.3%	21時間～25時間	1.9%	9.8%
6時間～10時間	18.4%	26.0%	26時間以上	2.4%	9.5%

つまり、同審議会は教育課程編成・実施の方針について、我が国の学生の学修時間は短く、授業時間外の学修を含めて45時間で1単位とする考え方が徹底されておらず、学習時間の実態を国際的に遜色ない水準にすることを目指した総合的な取組が必要であり、大学に期待される取組として、学生の学習時間等の実態把握、授業計画の明確化、必要な授業時間の確保と指摘している。

1 大学設置基準(文部科学省令第28号)(抄)

第21条 各授業科目の単位数は、大学において定めるものとする。

2 前項の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

一 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位とする。二 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもって1単位とすることができる。

高等教育がユニバーサル段階に入り、学生が多様化したことで特に授業および授業外でどのようなキャンパスライフを送っているのか明らかにし、実情を把握することは重要であると考え。そして実情を明らかにすることで、今後の高等教育の重要課題である質保証の課題の一助にすることとしたい。そのためには、授業での出席時間、授業の予習復習の課題時間および授業外の学修時間、クラブ・サークル活動の時間、さらに、アルバイトの時間等をアンケート調査で把握し、特徴を浮かび上がらせる。

本研究の背景

ここで川崎 (2018) の日本の大学教育の根本課題 (「教育改革の四半世紀と学生の変化」ベネッセ教育総合) を長くなるが引用する。

我が国の大学生の学修時間の増加や学修成果の獲得の障害となっている、「root cause (根本原因)」はどこにあるのであろうか。それは、日本の大学教育制度の根幹である「単位制度」の実質化を阻害する構造が、大学にも、そして社会にもあるからであると述べている。大学設置基準第21条には、「一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準」とすると規定されている。近年は、高等教育のグローバル化への対応のため、セメスター制からクォーター制や4ターム制に移行した大学も多いが、1コマの授業時間が、多くの大学が従来から採用している90分の講義や演習は、制度上は2時間とみなされているので、予習・復習などの授業外学修時間は、その2倍の4時間必要になる。そして、週1回90分(2時間の計算)の授業科目を15回履修すれば「2単位」が与えられるので、授業内外の学修時間は1科目当たり週に6時間必要である。したがって、大学設置基準が定める単位制度に基づけば、セメスター当たり、2単位科目であれば「7.5科目」しか履修できないと指摘している。

では、我が国の大学生の履修状況はどのようになっているのであろうか。「21世紀の大学像と今後の改革方策について一競争的環境の中で個性が輝く大学一」で引用されている1995年の文部省調査によれば、1学期あたりの履修科目数は14.5科目、年間履修単位数が58単位に及ぶ。これでは、ほぼ2年半で、卒業に必要な124単位が修得できてしまう。そこで、履修科目数の上限設定、CAP制度の導入の必要性が、1997年12月の「高等教育の一層の改善について」以降、各答申等でも繰り返し叫ばれてきた。2015年時点で、CAP制を導入している大学は91.6%に達している(「大学における教育内容等の改革状況について」(平成27年度)文部科学省)が、その実態は「1年間の履修上限単位数が多すぎて、各年次で均等に学ぶ構造になっていない」(学士課程答申)。また、実際の授業に関連した学修時間を見てみると、1995年の文部省調査では、授業内学修時間が19.3時間、授業外7.2時間、合計26.5時間で、授業内学修時間から導き出される履修科目数は約13科目(26単位)となるが、単位制度で必要な1単位45時間の学修時間に到底足りていない

と課題を展開している。

したがって、日本の大学教育の質保証、具体的には学生一人一人の学修の質と水準を高めるには、現状の「多数の科目を広く、浅く学ぶ」履修方法から「少数の科目を、深く学ぶ」という、単位制度の原則に基づく履修方法への転換が不可欠であると述べている。その履修方法の「転換」に必要なことは、一つには、アルバイトに依存しなくても、学業に集中できるような経済的な支援。それでも、アルバイトが必要な際には、授業に参加できるよう「work and study」

などの大学内でのアルバイト機会の提供が不可欠である。二つ目に、現在の学業の継続と就職活動の相反をなくすよう、就職の在り方の抜本的な解決と結論づけている。

では、日本の大学生の学修実態はどうであるか。2016年の国立教育政策研究所の調査によると、大学1・2年生の1週間あたりの平均学習時間では、授業への出席が約20時間、授業の予習・復習が約5時間であった。この調査研究は、平成26年11月に実施した学生調査をもとに分析している。調査は、全国の大学、短大に対して、回答者の無作為抽出、調査票の配布・回収などを依頼する方法で行われた。有効回答数は、大学の昼間部が国立4,982件、公立4,580件、私立10,622件、夜間部が公立681件、公立125件、私立765件。短大の昼間部が公立1,782件、私立3,488件、夜間部が公立127件、私立555件。1週間あたりの平均学習時間（大学昼間部）をみると、1・2年生時は、授業への出席が19.7～20.0時間、授業の予習・復習などは4.9～5.2時間、授業以外の学習が約2.3～2.6時間。1～3年生までのアルバイトなどの時間は、1週間あたり8.4～9.9時間。アルバイト時間と授業への出席の関連をみると、長時間のアルバイトは授業への出席を大きく妨げるものではなかった。ただし授業の予習・復習には影響があり、アルバイト「0時間」では14.6%いた予習・復習「11時間以上」が、アルバイト「21時間以上」では7.5%と大きく減少していると述べている。

次章では、本学生における1週間のキャンパスライフの実情についてアンケート調査をもとに考察する。

課題の設定と分析の枠組み

本研究は、本学生はどのようなキャンパスライフを過ごしているのか。特に授業における予習復習の課題や授業以外の自主的な学修はどのぐらい時間を割いているのか。加えて、教育出版会社や大学研究機関の調査データを用い比較検証しながら本学生の特徴を明らかにすることである。この課題を解決するためにインターンシップ基礎科目履修者である2年生を対象に下記のアンケート調査を実施した。回答は、国際言語・文化学科80名、史学・文化財学科68名、人間関係学科50名、食物栄養学科37名、発酵食品学科18名、国際経営学科82名の合計335名であった。

●本学生における質問項目

1. 1週間を振り返って、大学の授業などへの出席時間について当てはまるものを選んでください。(8件法)
2. 1週間を振り返って、授業の予習復習や課題の時間で当てはまるものを選んでください。(6件法)
3. 1週間を振り返って、大学の授業以外の自主的な学習時間で当てはまるものを選んでください。(6件法)
4. 1週間を振り返って、友達と会う、遊ぶ時間で当てはまるものを選んでください。(6件法)
5. 1週間を振り返って、サークルや部活動の時間で当てはまるものを選んでください。(6件法)
6. 1週間を振り返って、アルバイトの時間を選んでください。(6件法)
7. 1週間を振り返って、社会活動（ボランティア、NPO活動などを含む）の時間で当てはまるものを選んでください。(6件法)

8. 1週間を振り返って、テレビやDVDなどの視聴の時間で当てはまるものを選んでください。(6件法)
9. 1週間を振り返って、インターネットやSNSの時間で当てはまるものを選んでください。(6件法)

その後、2021年発表されたベネッセ教育総合研究所における「第4回大学生の学習・生活実態調査報告書」と第2回東京大学全国大学生調査(2018)第一次報告書を紹介し、それぞれ比較分析をおこなう。

分析結果

調査No.	調査内容	回答No.	全国大学生(注)		2018年調査(注)		2021年調査		2021年調査		2021年調査		2021年調査		2021年調査		2021年調査		
			手取り4ヶ月前	手取り4ヶ月前	手取り4ヶ月前	手取り4ヶ月前	手取り4ヶ月前	手取り4ヶ月前	手取り4ヶ月前	手取り4ヶ月前	手取り4ヶ月前	手取り4ヶ月前	手取り4ヶ月前	手取り4ヶ月前	手取り4ヶ月前	手取り4ヶ月前	手取り4ヶ月前	手取り4ヶ月前	手取り4ヶ月前
1	1週間を振り返って、大学の授業以外の読書について	0	39	14	34	20	13	30	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
		1-1	69	21	27	40	39	30	41	56	51	56	51	56	51	56	51	56	51
		1-2	21	78	73	60	61	70	61	49	43	43	43	43	43	43	43	43	43
		1-3	13	16	11	9	9	7	10	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
		1-4	14	14	9	177	221	111	265	167	111	111	111	111	111	111	111	111	111
		1-5	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119
1-6	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-7	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-8	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-9	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-10	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-11	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-12	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-13	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-14	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-15	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-16	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-17	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-18	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-19	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-20	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-21	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-22	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-23	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-24	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-25	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-26	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-27	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-28	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-29	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-30	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-31	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-32	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-33	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-34	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-35	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-36	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-37	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-38	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-39	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-40	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-41	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-42	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-43	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-44	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-45	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-46	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-47	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-48	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-49	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		
1-50	15	24	15	209	284	117	367	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119		

表1 ベネッセ教育総合研究所・東京大学経営研究センターおよび本学生の調査結果

1週間におけるキャンパスライフの過ごし方について本学生(2年生対象)のアンケート結果を考察する。本学生全体を分析しその後、学科ごとの特徴を浮かび上がらせる。本学生全体と学科別の回答結果表1の通りである。その後、2021年発表されたベネッセ教育総合研究所の「第4回大学生の学習・生活実態調査報告書」と第2回東京大学全国大学生調査(2018)第一次報告書を紹介し、比較分析をおこなう。

本学科では、本学生2年生の前期における1週間のキャンパスライフについて分析する。まず、本学生において、強い相

関が見受けられた。例示として人間関係学科と食物栄養学科(図1)、国際言語文化・学科と国際経営学科(図2)を比較すると高い相関性が見受けられた。

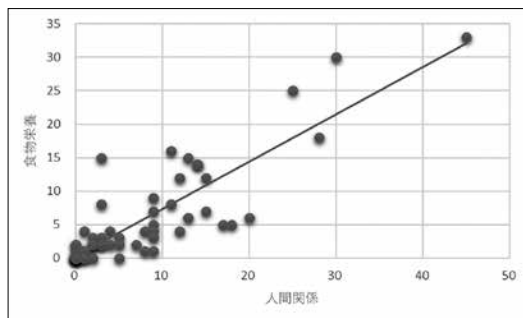


図1 人間関係学科と食物栄養学科の相関関係

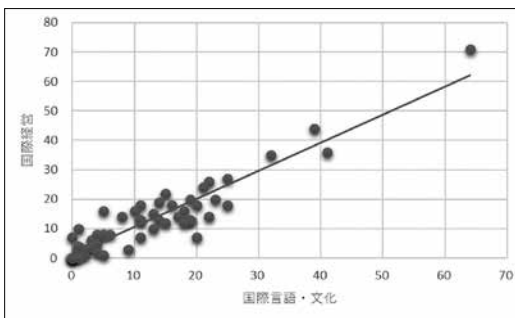


図2 国際言語・文化学科と国際経営学科の相関関係

次に、学修面について概観する。本学生全体の授業への出席時間を尋ねたところ、〔21時間以上〕が最も多く、25.6%、〔16-20時間〕20.9%、〔11-15時間〕17.7%と続いた。学科別では、食物栄養学科が21時間以上の授業に出席した割合が41.7%、発酵食品学科38.9%、史学・文化財学科31.8%、であった。本学生は、50.0%が1週間に11コマ以上の科目を履修している。

本学生全体における授業の予習復習や課題の時間の質問のうち、最も多かったのが〔1時間-2時間未満〕の55.7%、〔3時間-5時間〕24.9%であった。一方、やっていないと答えた学生が11.2%であった。学科別でもすべての学科で〔1時間-2時間未満〕と回答した学生が多かった。また、人間関係学科では40.0%、国際言語・文化学科同32.1%の学生が3時間-6時間の答え、16時間-20時間は、食物栄養学科2.7%、史学・文化財学科1.5%あった。

大学の授業以外の自主的な学習時間では〔1時間-2時間未満〕49.2%が最も多く回答し、〔やっていない〕28.5%、〔3時間-6時間〕14.3%続いた。学科別では、国際言語・文化学科の24.0%、国際経営学科20.0%で「3時間-6時間」と答え、食物栄養学科の5.4%、史学・文化財学科3.0%で16時間-20時間と答えた。

最後に、学修面以外では、本学生全体で友達と会う、遊ぶ時間を尋ねたところ、〔3時間-6時間未満〕が29.9%、〔1時間-2時間未満〕28.2%、〔6時間-10時間〕13.2%と続いた。一方、やっていない(遊んでいない)は、17.4%あった。学科別では、1時間-2時間未満と3時間-5時間合計が全学科でほぼ50%を超えていた。一方、やっていないは(遊んでいない)は、発酵食品学科27.8%、人間関係学科18.8%、国際経営学科16.0であった。

本学生全体におけるサークルや部活動の時間についての質問は、最も多かったのが〔やっていない〕の55.1%、〔1時間-2時間未満〕19.4%、〔3-6時間〕14.6%であった。学科別としては、史学・文化財学科で32.8%、国際・言語学科19.6%、国際経営学科18.8%の学生が〔1時間-2時間満〕と回答した。

本学生全体のアルバイトの時間では、最も多かったのが〔やっていない〕の29.1%、〔6時間-10時間〕19.3%、〔16時間-20時間〕18.1%と続いた。学科別は史学・文化財学科で43.1%、発酵食品学科38.9%〔やっていない〕と回答したが、一方で国際経営学科22.8%、食物栄養学科22.2%、人間関係学科22.0%が〔16時間-20時間〕と答えがあった。

社会活動(ボランティア、NPO活動などを含む)時間において本学生全体では〔やっていない〕88.0が最も多く回答し、〔1時間-2時間未満〕7.9%、〔3時間-5時間〕2.2%と続いた。

学科別では、史学・文化財学科16.7%、国際言語・文化学科の11.8%が〔1時間－2時間未満〕と答えがあった。

本学生全体でテレビやDVDなどの視聴の時間を尋ねたところ、〔1時間－2時間未満〕が35.8%、〔3時間－5時間〕27.1%、〔やっていない（視聴していない）〕17.3%と続いた。学科別では全学科で1時間から2時間未満が最も多く、3時間から5時間と続いた。〔やっていない（視聴していない）〕は、国際言語・文化学科26.0%、史学文化財学科25.8%国際経営学科22.2%と4人に1人は、まったく視聴していなかった。

本学生全体におけるインターネットやSNSの時間についての質問では、〔3時間－5時間〕が最も回答が多く28.1%、続いて、〔16時間－20時間〕24.8%、〔6時間－10時間〕18.1%〔6時間－10時間〕18.1%となった。〔やっていない〕は、1.3%であった。学科別では、国際言語・文化学科29.5%、史学・文化財学科29.4%、人間関係学科34.0%、国際経営学科24.7%と4人に1人は、〔16時間－20時間〕と回答した。

次に、2021年発表されたベネッセ教育総合研究所の「第4回大学生の学習・生活実態調査報告書」報告書と本学生全体(以下本学生)について比較分析を試みる。ベネッセ教育総合研究所(以下ベネッセ調査)の調査は、全国の大学生1～4年生に文系理系を対象4,124名の回答結果であることを断っておきたい。まず、本学生全体とベネッセを比較すると強い相関があることがわかった。(図3)

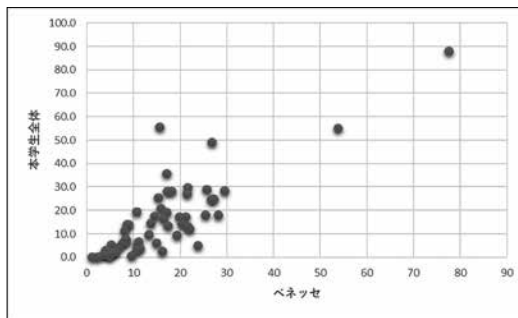


図3 ベネッセ教育総合研究所と本学学生の相関関係

次に、学修面について考察する。1週間の授業出席を比較検証したところ、本学生は、〔21時間以上〕の割合が25.6%、〔16時間－20時間〕20.9%と回答したが、ベネッセ調査では、〔21時間以上〕が15.3%、〔16時間－20時間〕15.9%と割合がやや少なくなった。しかし、これはベネッセ調査が全学年全学科を対象としているためで同じような傾向が読み取れるといえる。

授業の予習復習や課題の時間の質問では最も多かったのが本学生〔1時間－2時間未満〕の55.7%、〔3時間－5時間〕24.9%であった。一方、ベネッセ調査では、〔3時間－5時間〕27.1%、〔6時間－10時間〕23.1%と回答した。この回答も対象学年学部は異なっているが、本学生がやや短くなっている。

大学の授業以外の自主的な学習時間では本学生〔1時間－2時間未満〕49.2%が最も多く〔やっていない〕28.5%、〔3時間－6時間〕14.3%続いた。ベネッセ調査は、〔やっていない〕29.5%、〔1時間－2時間未満〕26.8%と回答した。この回答でも類似傾向が見受けられた。本学生28.5%、ベネッセ調査29.5%と4人に1人は、大学の授業以外の自主的な学習をおこなっていないことがわかった。次に紹介する東京大学全国大学生調査(2018)第一次報告書では、1か月の読書量(マンガ除く)では、1冊も読まない学生が47.6%と半数であった。

最後に、学修面以外では、友達と会う、遊ぶ時間を尋ねたところでは、本学生では〔やっていない(会っていない)〕28.5%、ベネッセ調査は29.5%と4人に1人があっていないと回答した。これは、ベネッセ調査のコメントではコロナ禍が大きく影響がしているとのことであった。本学生は〔3時間－6時間未満〕が29.9%、〔1時間－2時間未満〕28.2%、ベネッセ調査は〔6時間－10時間〕21.6%、〔3時間－5時間〕21.5%と続いた。

サークルや部活動の時間について「やっていない」と回答したのは、本学生は55.1%、ベネッセ調査が53.1%と回答した。2人の1人はやっていないことになる。続いて本学生は「1時間－2時間未満」19.6%、「3－6時間」14.6%であった。ベネッセ調査は「3時間－5時間」13.7%、「6時間－10時間」が10.7%であった。

アルバイトの時間でも2極化し同じような傾向が見受けられた。本学生の29.1%、ベネッセ調査は25.6%と4人に1人が「やっていない」と回答した。一方で、「16時間－20時間」は本学生が18.1%、ベネッセ調査は28.1%と答えた。

社会活動（ボランティア、NPO活動などを含む）時間において本学生全体では「やっていない」88.0%が最も多く回答し、「1時間－2時間未満」7.9%、「3時間－5時間」2.2%と続いた。学科別では、史学・文化財学科16.7%、国際言語・文化学科の11.8%が「1時間－2時間未満」と答えがあった。次に、学習面以外では、本学生全体で友達と会う、遊ぶ時間を尋ねたところ、「3時間－6時間未満」が28.9%、「1時間－2時間未満」25.0%、「6時間－10時間」18.4%と続いた。学科別では、1時間－2時間未満と1時間－2時間未満合計で国際経営学科は48.9%であったが、他5学科は60%を超えていた。

本学生全体におけるサークルや部活動の時間についての質問は、最も多かったのが「やっていない」の55.1%、「1時間－2時間未満」19.4%、「3－6時間」14.6%であった。学科別としては、史学・文化財学科で32.8%、国際・言語学科19.6%、国際経営学科18.8%の学生が「1時間－2時間満」と回答した。

テレビやDVDなどの視聴の時間を尋ねたところ、本学生は「1時間－2時間未満」が35.8%、「3時間－5時間」27.1%、「やっていない」17.3%と回答し、ベネッセ調査では、「3時間－5時間」が最も回答が多く24.1%、続いて、「やっていない（視聴していない）」19.8%、「16時間－20時間」19.3%と続いた。この結果、約5人に1人は、テレビやDVDを視聴していないこと、僅かではあるがベネッセ調査が本学生よりもテレビやDVDを視聴時間がながいことがわかった。

インターネットやSNSの時間についての質問では、本学生は「3時間－5時間」が最も回答が多く28.1%、続いて、「16時間－20時間」24.8%、「6時間－10時間」18.1%、ベネッセ調査では、「16時間－20時間」26.6%、「6時間－10時間」18.1%、「3時間－5時間」と回答した。ほぼ同じような傾向が見受けられた。

最後に、第2回東京大学全国大学生調査（2018）の第一次報告書の中から人社教芸系と本学生の文学部と国際経営学部（以下文学経営系と略す）の平均と、保健・家政系は食物栄養学科・発酵食品（以下栄養科学部と略す）の平均を考察する。（図4・図5）

人社教芸系と、本学の文学経営系の出席時間を比較したところ、人社教芸系では、「16－20時間」21.4%、「11－15時間」19.4%、「21時間以上」19.1%と続いた。文学経営系は「16－20時間」26.4%、「21時間以上」18.2%とほぼ同じような傾向が見受けられた。

授業の予習復習や課題では、人社教芸系、文学経営系とも「1時間～2時間未満」が最も多く40.8%、51.3%と回答した。そして、「3時間－5時間」26.3%、29.1%、「やっていない」14.2%、12.7%と続いた。こちらも同じような傾向が見受けられた。

大学の授業以外の自主的な学修時間は、人

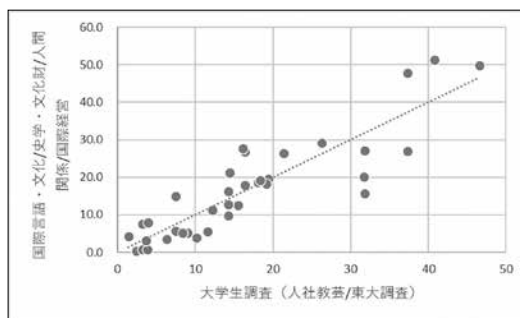


図4 東京大学（人社教芸）調査と本学文学部・国際経営学部の相関図

社教芸系では、〔1－2時間未満〕37.3%、〔やっていない〕31.8%、〔3時間－5時間〕16.4%と続いた。文学経営系は〔1－2時間未満〕47.8%、〔やっていない〕27.1%、〔3時間－5時間〕18.0%と続いた。ここでも同じような傾向が見受けられ、〔やっていない〕の学生が4人に1人は達した。

友達と会う、遊ぶ時間は、人社教芸系、文学経営系とも〔1時間～2時間未満〕37.3%、27.0%と最も多く答えた。そして人社教芸は、〔やっていない（会っていない）〕31.8%、〔3時間－5時間〕16.4%と回答し3人に1人が友達と会い、遊んでいないことが浮かび上がった。文学経営系は〔3時間－5時間〕26.8%、〔やっていない（会っていない）〕15.7%と回答した。12.7%と続いた。

サークルや部活動は、人社教芸系、文学経営系とも〔やっていない〕46.6%、49.9%と最も多く回答した。そして人社教芸は、〔1－2時間未満〕14.4%、〔3時間－5時間〕14.2%と回答し2人に1人はやっていないことがわかった。文学経営系は〔1時間－2時間未満〕21.2%、〔3時間－5時間〕16.3%と回答した。

人社教芸系と、本学の文学経営系のアルバイトの時間を比較したところ、人社教芸系では、〔16－20時間〕31.7%、〔11－15時間〕18.3%、〔6－10時間以上〕18.1%と続いた。文学経営系は〔やっていない〕27.7%、〔16－20時間〕20.2%、〔11－15時間〕19.3%と答えた。

本学生の文学経営系では、人社教芸よりも〔やっていない〕が多く回答していた。

保健・家政系と、本学の食物栄養科学部の出席時間を比較したところ、保健・家政系では、〔21時間以上〕40.3%、〔3時間－5時間〕11.1%、〔16時間－20時間〕9.75%と回答した。このようにほぼ同じような傾向が見受けられた。

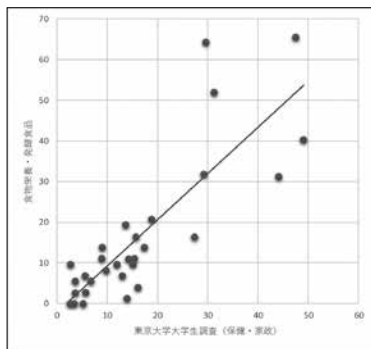


図5 東京大学（保健・家政）調査と本学食物栄養科学部の相関関係

授業の予習復習や課題では、保健・家政系、食物栄養科学部とも〔1時間～2時間未満〕が最も多く29.6%、64.4%と回答した。そして、〔3時間－5時間〕27.3%、16.5%、〔やっていない〕9.8%、8.3%と続いた。こちらも同じような傾向が見受けられた。

大学の授業以外の自主的な学修時間は、保健・家政では、〔やっていない〕44.0〔1－2時間未満〕31.2%、〔3時間－5時間〕13.0%と続いた。食物栄養科学部は〔1－2時間未満〕52.1%、〔やっていない〕31.4%、〔3時間－5時間〕6.9%と続いた。ここでも同じような傾向が見受けられたが食物栄養科学部がやや多く自主的な学習をしていた。

サークルや部活動は、保健・家政、食物栄養科学部とも〔やっていない〕47.4%、65.6%と最も多く回答した。そして保健・家政は、〔1－2時間未満〕15.7%、〔3時間－5時間〕14.2%と答えた。食物栄養科学部は〔1時間－2時間未満〕16.5%、〔3時間－5時間〕11.1%と回答し、同じような傾向が見受けられた。

保健・家政と、本学の食物栄養科学部のアルバイトの時間を比較したところ、保健・家政では、〔やっていない〕29.2%、〔16－20時間〕17.3%、〔6－10時間以上〕18.8%と続いた。食物栄養科学部は〔やっていない〕32.0%、〔6－10時間〕21.0%、〔3－5時間〕19.5%と答えた。保健・家政、本学生の食物栄養科学部とも、3人に1人はアルバイトをやっていないことがわかった。

考 察

本研究は、本学生がどのようなキャンパスライフを過ごしているか。その特徴や課題を明らかにすることであった。このためにまず、必修科目であるインターンシップ基礎の履修者2年生を対象にアンケート調査をおこない考察した。次に、2021年発表されたベネッセ教育総合研究所(1年生～4年生を対象)の「第4回大学生の学習・生活実態調査報告書」を概観し比較分析をおこなった。最後に第2回東京大学全国大学生調査(1年生～4年生を対象(2018))第一次報告書を用い、文学・国際経営学部と食物栄養科学部とそれぞれ比較分析をおこなった。

1. 本学生の1週間のキャンパスライフについて、学科における差異は見受けられなかった。
2. 本学生の1週間のキャンパスライフについて、全学生とベネッセ教育総合研究所および学部別と東京大学全国大学生調査を用い比較検証したところ、こちらも差異は見受けられなかった。

本学生において学科別の比較分析をおこなったが、差異はほとんど見受けられなかった。しかし、幾つかの点では特徴が見受けられた。まず、学修面である大学での出席時間は、史学・文化財学科、食物栄養学科、発酵食品学科では、やや多いことが明らかになった。次に、授業の予習復習や課題の時間は、全学科とも1時間から2時間未満と回答し50%を超えていた。次に、3時間から5時間であった。そして、大学の授業以外の自主的な学修は、1時間から2時間未満とやっていないとの回答が多かった。生活面では、全学科とも友だちと会う、遊ぶ時間では、1時間から2時間未満、3時間から5時間が多く答えていた。サークル活動や部活動の時間では、全学科でやっていない学生が50%を超えていた。食物栄養科学部では、81.1%であった。アルバイトの時間は、全学科で25%を超え4人に1人はアルバイトをおこなっていないことが明らかになった。また、史学・文化財学科では43.1%食物栄養科学部では38.9%に達した。社会活動は、全学科で90%の学生がおこなっていないことがわかった。

次に、本学生全体とベネッセ教育総合研究所について比較分析をおこなったがほとんど差異は見受けられなかった。僅かではあるが、授業の予習復習や課題の時間に差異が見受けられた。これは、ベネッセ教育総合研究所の調査対象の違いが一因していると考えられる。

最後に東京大学全国大学生調査において人社教芸系と本学文学部および国際経営学部、保健・家政と本学食物栄養科学部において比較検証をおこなったが、ここでも差異はあまり見受けられなかった。

今後の課題

本研究では、本学全体および文学部・国際経営学部そして、食物栄養科学部の特徴を明らかにすることができた。しかし、今回の調査では、定量的調査のみに限定しており、その要因については踏み込んでいない。また、他調査結果と比較検証するためには、各学年の調査が必要である。濱名(2007)は、「I-E-Oモデル」(アスティン(Astin))のなかで入学段階(Input)での差が、学生たちの学習環境(Environment)の重要性すなわち関与によって、おおきな成果(Outcome)の違いを生み出すことを指摘している。また、多様な機能を大学教育が果たすことを期待されるようになると定量的に測定できるものに加え定性的な成果までを含めて測定する方法や手法が求められるようになると述べている。

今後は、なぜこのような特徴がみられるのかを定性的に検証していく。さらに、大学授業以外の自主的な学修の時間について、どうすれば質量とも充実させることができるのか。学修時間と

その他の時間との関係はどうなっているのか。加えて、これはキャリアとの関連でもあるがアルバイト有無と就業意欲の関係性等個々の項目についても調査を進めていく。

謝 辞

本研究において、インターンシップ基礎の履修学生にアンケート調査をおこなった。回答いただいた学生に感謝致します。

参考文献

- 中央教育審議会大学分科会（審議のまとめ）（2008）
学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）(mext.go.jp)
中央教育審議会（答申）（2012）
答申本文（1/2）(mext.go.jp)
第1回全国大学生調査（2007） 大学経営・政策研究センター
全国大学生調査（本調査2007年・追加調査2009年）－大学経営・政策研究センター(CRUMP) (u-tokyo.ac.jp)
教育改革の四半世紀と学生の変化（2018）川崎太津夫 ベネッセ教育総合研究所
教育改革の四半世紀.pdf
第2回全国大学生調査（2018） 大学経営・政策研究センター
『第2回全国大学生調査（2018）第1次報告書』ver.4.pdf
第4回大学生の学習・生活実態調査報告書（2021） ベネッセ総合研究所
第4回 大学生の学習・生活実態調査報告書 データ集 [2021年] | ベネッセ教育総合研究所 (benesse.jp)

